



兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所
 所長 達可 明朗 さん

安全安心の まちづくりのために

東播磨地域の道路・河川などハード面における整備計画は、実現に向けて着実に前進しています。地域活性化の社会基盤としても期待されるこれらのプロジェクトを担う加古川土木事務所に着任された達可明朗さんにお話を伺いました。

土木事務所の業務は多岐にわたります

加古川土木事務所では道路・河川等の整備・維持管理だけではなく、港湾や流域下水道など社会基盤の管理・整備も幅広く担っており、現在、約150名の職員が勤務し、事業量とともに県下の事務所のなかでもトップクラスです。

また、当所が担当で今年3月に自転車競技シクロクロスの大会が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になりました。現在、来年2月頃に開催できるよう準備

を進めています。今年は様々なイベントが中止となったので、少しでも地域を盛り上げられるよう、大会を成功させたいですね。

東播磨地域でビッグプロジェクトが続きます

東播磨道については、北工区（八幡稲美ランプ～仮国道175号ランプ）が令和6年度全線開通を目標に今まさに工事が進められているところです。この道路は安全で円滑な交通を確保でき、沿道住民の利便性とともに、広域医療体制の充実も期待できます。

また、国道2号についても現在是用地取得について、権利者の方々と調整をしながら進めているところです。長年の懸念であった国道2号の4車線化については、周辺地域の多くの方も待ち望んでおり、いよいよ本格的に着手できる状況になりました。

4車線になると中央分離帯の設置が必要となりますが、沿道の使い方等、皆さまとしっかり話し合い、ご理解を得ながら進めていく予定です。沿道の商業開発が進み、市中心部が活性化されることを期待していますし、その一端となる道路整備を着実に進めていかなければならないという責任も感じています。

そして、街の産業・活力を支える道路整備とともに、災害時、大きな被害をもたらす恐れのある河川の整備も順次実施しているところです。昨今、河川の氾濫による被害が全国

で増え河川整備は急務となっており、東播磨地域においても災害の予防措置として、堆積土砂の除去作業を進めています。さらには決壊防止のための堤防強化にも取り組んでいきます。また、加古川橋の橋脚数を減らすことにより障害物を少なくし、水を流れやすくするための架替工事は計画どおり昨年橋脚1基が完了し、今冬期にも2基建設予定で、道路・河川の整備は安全安心のまちづくりのためにも欠かせない非常に重要な事業ですので、しっかりと着実に進めてまいります。

先は長い、次のステップへ

播磨臨海地域道路は先般、内陸加古川ルートに決まったところです。今後は国や関係市町と協議しながら詳細なルート検討が進められますが、都市計画決定を経て事業着手となるのは、まだ少し時間を要します。この東播磨地域は全国でも有数の製造品出荷額を誇る地域です。産業の活性化を支援するために大きな役割を担うとともに、国道2号バイパスや明姫幹線などの混雑解消も期待でき、災害時の交通機能の多重化など、全県にとって大事な道路となります。

当所管内では、道路・河川と大きな整備プロジェクトが続いています。地域産業の競争力アップと安全安心の確保に向けた基盤整備をしていきたいと考えていますので、地域の皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。